

学位論文の審査結果の要旨

本研究は、棟持柱構造をなす建築を地球規模で考察したものである。棟持柱構造とは、棟持柱を持つ建物を指す。棟持柱とは、建築の主要構造材である柱のうち、地面から直に棟木を支える垂直材のことである。棟木とは、方形平面をなす建築において、最も高いところに据えられた水平材のことである。

この水平材すなわち棟木を地面から直に支える垂直材すなわち棟持柱は、日本では伊勢神宮の建築に見られるなど、よく知られている。日本以外でも、棟持柱を持つ建物があることが知られている。しかし、棟持柱の、地球規模での成立過程や分布については、不明な点が多かった。

本研究は、この棟持柱構造の成立過程や分布を考察するうえで、伝承と伝播を取り上げている点が注目される。伝承と伝播は、ともに伝達の一形式である。伝承は、同一の文化領域の中で伝達される場合である。対して、伝播は、別の文化領域へと伝達される場合である。伝承と伝播というこれら二つの伝達を考察することによって、本研究は、棟持柱構造の、地球規模での成立過程と分布を明らかにしている。

具体的な研究対象として、本研究は、現代メソアメリカ北部地域と中世日本を採り上げている。これら二つの文化領域は、棟持柱構造を考えるうえで、ミッシング・リンクとなっていたところであった。この二つの文化領域における、棟持柱を持つ建物の実態を明らかにすることは、棟持柱構造の伝達（伝承と伝播）を明らかにすることにつながる。

まず、現代メソアメリカ北部地域では、現代に遺存している建築遺構を対象として、フィールド調査を敢行し、24棟を具体的な事例として抽出したのち、複数の指標を設定して、ここの建物の位置づけを行い、併せて、棟持柱構造の伝達（伝承と伝播）の実態を考察しており、その結果、目視による伝承と伝播という、すこぶる有意義な研究成果を得ている。とりわけ、生きた建築遺産における伝承と伝播として捕捉された内容は貴重である。

つぎに、中世日本では、建築を対象とした絵画を対象として、建築構造と絵画的表現との関係を扱っている。具体的な絵画として、慕帰絵について考察が深められており、併せて一遍上人絵伝について、分析が加えられている。建築を対象とした絵画的表現として、釘隠しが

打たれた水平材つまり長押と舟肘木の上のる水平材つまり軒桁に注目して、これら二種の水平材が、垂直材とくに棟持柱とどのような関係があるかを考察している。考察の結果、これら二種の水平材によって切られていない垂直材が描かれている点を実証した上で、実際の棟持柱が絵画として捉えられている点を本研究は明らかにしている。この考察は、絵画が、伝達（伝承と伝播）において有力な役割を果たしていることを示すものである。

現代メソアメリカ北部地域と中世日本のほか、本研究は、棟持柱をもつ建物が地球規模で分布している事実を、複数の言語による参考文献を通じて、捕捉している。

本研究は、棟持柱を持つ建物が地球規模で分布しているという事実に加えて、その姿が互いに似通っていることに注目したうえで、この建物をバナキュラーと呼ぶことに疑問を投げかけている。その考察の結果、棟持柱を持つ建物は、バナキュラーvernacularと呼ばれるべきではなく、ノストラティックNostraticと呼ばれるべきであることを提示している。ノストラティックは、言語学に見える概念で、複数の語族を含む“大言語族”を形容するものである。

この“大言語族”に属すると解される棟持柱構造は、原初へ遡る祖形であるとともに、地球規模で現代に受け継ぎ伝えられてきたという意味で、生きている建築遺産である、と本研究は述べている。本研究は、棟持柱構造を人類が手に入れた「知」と位置づけたうえで、その「知」がそれぞれの地域で伝承され、それぞれの地域へ伝播したものの、その素朴な姿を保って、現代まで地球規模で広がってきた、としている。本研究は、まさに、ノストラティックという概念を棟持柱構造に与えた論考として高く評価されるべきものである。

このように、棟持柱構造を対象とした、すこぶるグローバルな観点に立脚する本研究は、個々の文化領域に注目しながら、地球規模での現象を説明し得る普遍的な概念として、ノストラティックという貴重な概念を提示した、という判断の下、有意義な研究成果であると判断することができる。

以上より、本研究でまとめられた学位論文を合格とすることが適切であると判断することができる。

公表主要論文名

1. Erika Koshi, Toshikazu Tsuchimoto, Yabin Li: Analyses of buildings with base-to-ridge posts in the northern part of Mesoamerica, International Journal of Heritage Architecture, Vol.1, No.4, pp.730-750 (2017)
2. 奥恵理香, 李雅濱, 土本俊和, 慕婦絵に描かれた釘隠しと舟肘木 - 絵画的表現と建築構造 -, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 82, No. 741, pp. 2949-2959 (2017)
3. Erika Koshi, Toshikazu Tsuchimoto: The Importance of buildings with base-to-ridge posts in Mexico in the global history of architecture, Structural Studies, Repairs and Maintenance of Heritage Architecture XIV, pp.783-795 (2015)